

## 六甲山再度公園のキノコの18年間の推移について

田中茉莉 苗村明里 志村美樹 村下友風 林孝太郎 門田智子 中村孝憲 張琳華  
 (兵庫県立御影高等学校 環境科学部生物班)

### はじめに

本校では平成20年度から兵庫県立人と自然の博物館・兵庫きのこ研究会・神戸市立森林植物園・神戸YMCAなどと連携しながら六甲山のキノコの調査を行っている。六甲山の再度公園(ふたたびこうえん)のキノコの多様性を標本作成、生態分析などから明らかにし、多くの人に伝えることが活動の目的である。今回は過去18年間の菌根菌と腐生菌の推移を出現頻度から調査した。



### 調査方法

- (1) 毎年3月～11月の第3日曜日に六甲山再度公園で定点観察会に参加した。
- (2) 2001～2018年までのキノコの観察記録から、エクセルで3年、6年、9年、12年、15年、18年ごとのキノコの出現頻度を算出した。
- (3) 1年で1回でも見つかると1とした確認年数を総確認回数より優先させて出現順位を決め、100位以内の推移を菌根菌と腐生菌で比較した。

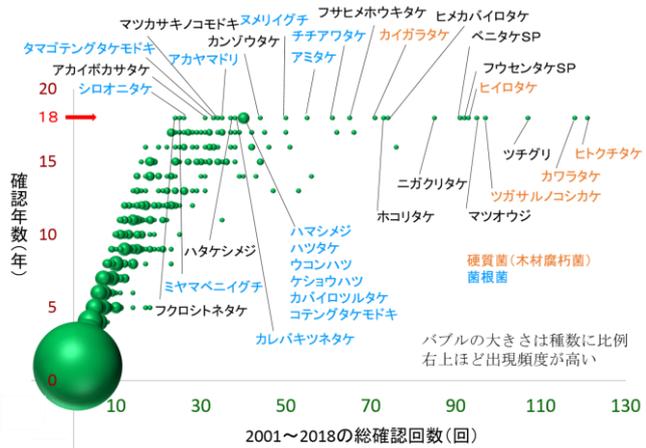


図1 18年間の出現傾向

### 結果と考察

- (1) 18年間毎年見られるキノコの出現傾向をみると腐生菌、特に硬質菌を主体とした木材腐朽菌が上位を占めていることがわかった。また菌根菌は季節性のキノコに多く見られ、6月～10月に集中した(図1)。これら上位種のキノコの種数は少なく、出現頻度の少ないキノコの種数は多い(図1左下)。このことから再度公園のキノコの多様性は希少種が支えていると考えられる。
- (2) 18年間の推移をみると、菌根菌は毎年ほぼ50%前後見られるのに対し、マツオウジ、フクロシトネタケ、チシオタケなどの硬質菌以外の木材腐朽菌の種数は増加していた(図2)。台風やナラ枯れなどによる枯死、倒木、あるいは人為的な伐採などがその要因として考えられる。近年特に公園内ではカシノナガキクイムシによるマスタックの被害が目立つので、ナラ枯れの影響が大きいかもしれない。

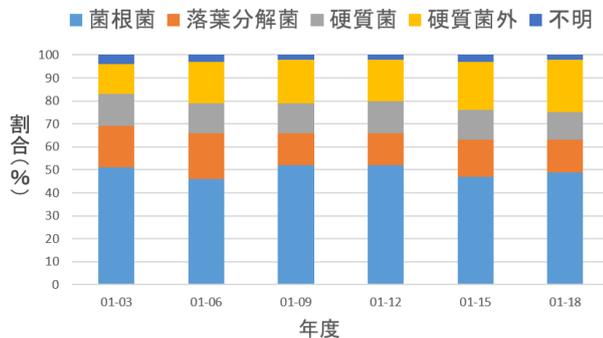


図2 上位100種類における菌根菌と腐生菌の出現状況の変化